

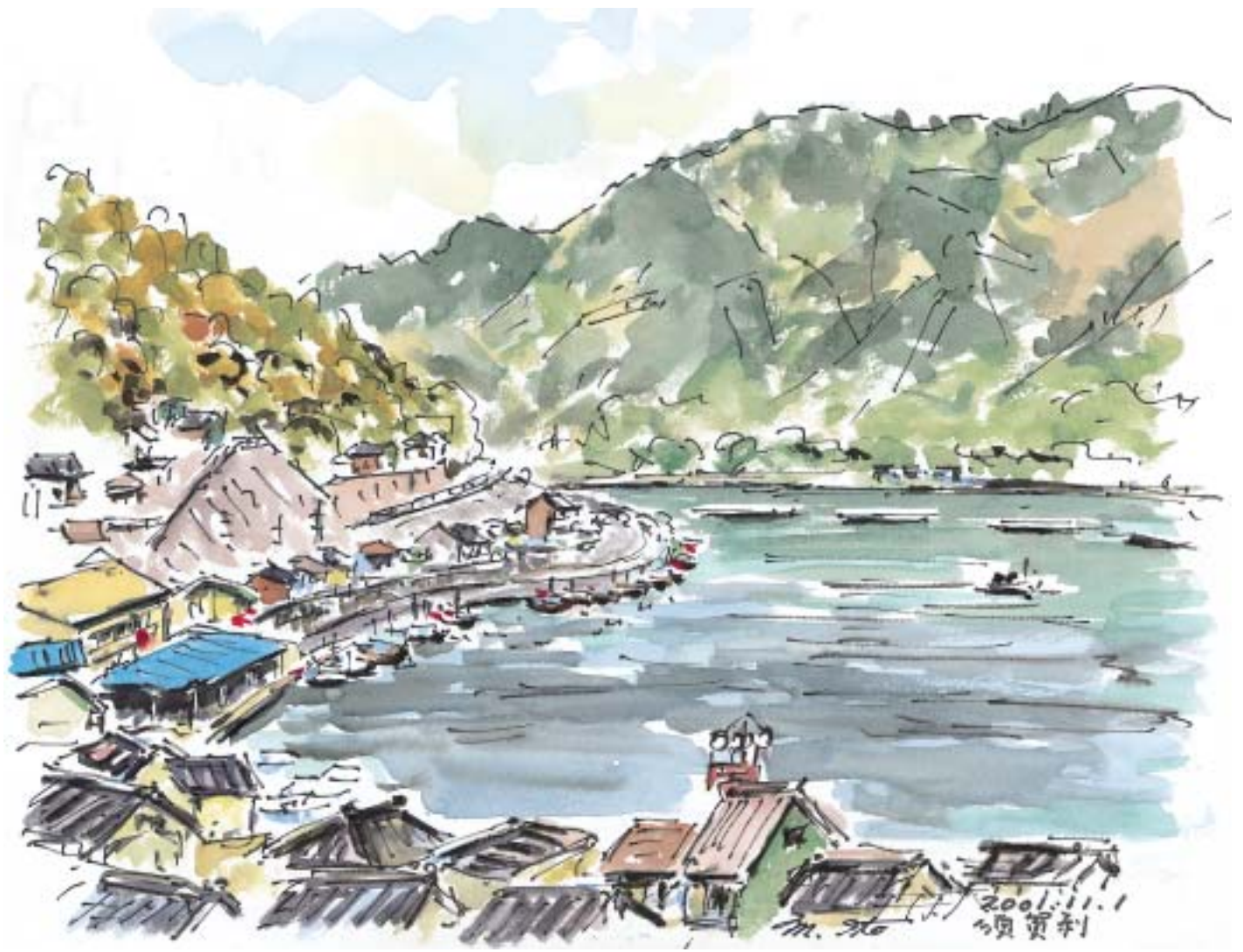
## 須賀利

三重県の須賀利（すがり）と言っても、知る人は少ないであろう。この小さな漁村は実は私（岡本）の郷里である。昭和29年の町村合併により、北牟婁郡須賀利村から尾鷲市須賀利町となった。典型的な過疎の町であり、私が通った尾鷲市立の須賀利中学校と須賀利小学校は、平成9年と平成13年にそれぞれ休校になってしまった。ある時伊藤先生が、「おまえの郷里の近くに大王崎があるが、そこでいつか絵を描いてみたいと思っている。」と仰ったので、私はこれはチャンスだと思い、「それでは、大王崎にご案内しましょう。但し、私の郷里も絵にして頂けませんか？」とお願いした。それで、伊藤先生が岡崎機構を退官された直後の2001年5月の連休中に、伊藤先生ご夫妻の他に平田文男教授夫妻と谷村吉隆助教授（現京大教授）を誘って、大王崎—浜島温泉—熊野古道伊勢路—那智の滝—熊野那智大社—那智勝浦温泉—須賀利と回る大旅行を企画したのであった。ところが、出発直前に伊藤先生の奥様が体調をくずされたので、残念ながら、ご夫妻が急遽参加されず、我々4人だけの旅となった。須賀利の絵ももう描いて頂けないだろうと諦めていたところ、伊藤先生が私の気持ちを察して下さったようで、後日、「とりあえず須賀利へ行って絵を描いてくる。」と仰った。そして、その年の11月初めに谷村さんと私が同行して、私の夢が叶った。結局、私の生家を含め、合計6枚も描いて下さったのである。

絵はそのうちの1枚で、私の母方の先祖（濱田家、漁船の船大工で元禄12年から私の母の兄弟の代までずっと地元で造船所をやっていた）が建てた、曹洞宗の普濟寺という寺の境内から見下ろした須賀利と須賀利湾の風景である。平地が少ないので、家が密集しているのが分かる。画面中央下右よりに火の見櫓が見える。また、画面左の青い大きな屋根は須賀利漁業協同組合の魚市場のものである。この2つの間の海岸沿いに、巡航船の船着き場の栈橋がある。

この場を借りて、伊藤先生の暖かい心遣いに改めて感謝したい。また、近いうちに、大王崎にご案内するのを忘れてはいけないことも思い出した。

岡本祐幸（分子研助教授）記す



須賀利 (2001.11)

サインペン、水彩、F3